

第74回米国心臓病学会 (AHA)

安達 仁*

第74回米国心臓病学会 (annual meeting of the American Heart Association) は、カリフォルニア州オレンジカウンティのアナハイムコンベンションセンターにて32,000人以上の参加者を集めて開催された。順調に進んでいた学会の準備も9月11日の恐ろしい事件により一変したようで、郵便物の遅配のために演者に事前に届けられる参加者章が届かないため、レジストレーションブースの演者用の登録窓口を大きめにしたり、犬を連れた警備員も含めて警備体制を強化したり、いろいろな苦勞の跡が見られた。しかし、その甲斐あってか、参加者は安心してディスカッションを行うことができたようであった。

今年の学会は Dr. David P. Faxon, M.D. のもとで開催され、応募総数13,571、採択率は27%であった。日本からの演題応募数は米国について2番目で2,429題であった。筆者も exercise test のセッションで発表する機会を得た。以下に筆者の学会の印象を書くが、筆者は心不全・心臓リハビリ

テーション部門に在籍し、専門にしているため、参加したセッションがその関連セッションに偏っている。従って、AHA meeting の特徴のひとつである、先進的な基礎系の演題については記載できないことをお断りしておく。

運動関連については、運動療法と血管内皮細胞機能や心不全の運動療法についての演題がトピックスであった。Endothelial function and exercise というセッションでは10題発表があり、血管内皮細胞と運動との関連についての新知見が報告された。Leipzig の Dr. Rainer Hambrecht のグループは、左内胸動脈のアセチルコリンに対する反応性が運動療法によって改善することを示し、自治医大の斎藤宗靖のグループは下肢の運動療法によって下肢の血管拡張能が改善し、上肢の血管は改善しないことを示した。

また、plaque rupture/ formation と関連した演題として、CRP 等の新しい冠危険因子が運動療法によって減少するという演題が数題見られた。Adamopoulos は monocyte と内皮細胞の接着に関



写真1 会場となったアナハイムコンベンションセンター



写真2 ポスター会場風景

*群馬県立心臓血管センター循環器内科



写真3 会場に隣接したホテルでの国際交流のひとつ

連する免疫マーカーである GM-CSF (granulocyte-macrophage colony-stimulating factor), sGM-CSFR (GM-CSF soluble receptor), MCP-1 (macrophage chemoattractant protein-1), sICAM-1 (soluble intercellular adhesion molecule) や sVCAM-1 (soluble vascular cell adhesion molecule-1) が12週間の運動療法によって減少することを示し、また Ancona の Dr. Romualdo Belardinelli らのグループは8週間の運動療法が homocystein を低下させることを報告した。CRP が運動療法によって減少するという報告は New Orleans の Dr. Richard V Milani らによってなされた。これらは、運動療法が冠動脈

硬化発症を抑制するというのみならず, acute coronary syndrome の発症を減らす可能性があるという証拠になるものと思われた。

筆者にとってインパクトが強かったのは、前述した Leipzig の Dr. Rainer Hambrecht のグループから出た演題で、労作性狭心症に対する12ヶ月間の運動療法は PCI (percutaneous coronary intervention) 同様に狭心症の症状, MACE (major cardiovascular events) を減少させ、さらに regression に関しては PCI よりも促進させる傾向が認められたという演題である。労作性狭心症や不安定狭心症患者をみると、PCI が極めて手軽に施行でき、また、短期成功率が高く、直後の症状の改善が著明なため、つい手軽に PCI を行いたくなるが、運動療法を根気よく行えば、血管病変にとって根本的な治療となりうる可能性が示された演題といえよう。

以上 AHA meeting のごく一部を紹介したが、筆者が記載すると、まるで AHA meeting が運動心臓病学関連の学会であるかのような印象を与えてしまうかもしれない。しかし例年通り遺伝子治療や再生医療などに関連した基礎系の演題は半分くらいあり、そちらも熱心な討論がなされていたようであった。そちらを確かめたい方はインターネットの AHA のウェブサイトを訪れることを薦める。